

令和7年度 第3回 越前市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時	令和7年7月28日(月)16:00～17:50
場 所	越前市役所3階 第3委員会室
議 題	別添「次第」のとおり
出席者	別添「配席図」のとおり

◆開会

発言者	内容
事務局	・越前市地域公共交通活性化協議会規約第7条第2項の規定により、委員の過半数が出席しており、会議が成立することを報告する。 ・同条第4項の規定により、会議は原則公開としている。本日の会議についても公開する。 ・橋本真樹委員、福岡豊子委員が欠席である。また、中出博行委員が欠席のため、中村氏に代理出席いただく。

◆部長あいさつ

発言者	内容
部長	・日頃より本市の交通行政にご理解、ご協力いただき、感謝申し上げます。 ・本市では昨年度に引き続き、10月に自動運転実証事業を実施する予定である。NTT 西日本(株)福井支店様、福井鉄道(株)様と共同で国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業)」の企画を提案し、全国67団体の1団体として採択を受けた。今年度は、ルート延長や車両のグレードアップなど、将来的なレベル4に向けた実証事業となることから、今後の新しい交通の可能性を探る有意義な実証事業として、安全・安心な運行を行っていききたい。 ・本市の公共交通については、運転士不足や利用者の減少、越前たけふ駅からの二次交通などの課題があるなか、既存の市民バス「のろっき」や路線バスと、新たな公共交通である予約のりあいタクシーや地域支えあい交通を組み合わせることで、市民の皆さまや来訪者の方々の日常生活や経済活動を支える持続可能な地域公共交通を構築していきたい。そして、しっかりと市民の皆様や来訪者の方々に周知し、日頃から馴染みやすく、使いやすい公共交通として定着できるよう、認知を高めていく。 ・本日の会議は、自動運転実証事業の概要のご報告のほか、市民バスから予約のりあいタクシーへの移行、路線バスの減便等についての協議を予定している。今後の方向性についての重要な会議であるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

◆会長あいさつ

発言者	内容
会長	・昨年度計画策定において、地域公共交通の位置づけを明確にした。ここから PDCA の Do、「実践」をし、円滑に PDCA を回していかなければならない。一歩ずつ前進し、計画倒れにならないことが非常に重要。 ・委員の皆様には専門的な立場、市民代表の立場から建設的な意見を求める。

◆報告事項（1）自動運転実証事業について

発言者	内容
	資料に基づき、事務局より説明
会長	・昨年度に乗車した際、かなりブレーキが気になるような状況だったが、EVOは改良されているか。
事務局	・急ブレーキの部分は多少緩和されていると聞いているが、障害物を検知すると停止することは前回と変わらない。シートベルトなどの安全対策はしっかりと行い、車内事故に繋がらない対応を考えていきたい。
会長	・昨年度と比べて、一般の方々向けの乗車期間は長くなっているのか。
事務局	・1週間長く今回運行する。 ・運行する時間帯は10時から16時、便は8便ほど運行予定である。運行ダイヤは、約20分で周回するルートを午前中に3便、午後に5便で検討している。県道を走る区間が長くなることで渋滞や追い抜きなどの事故につながることを越前警察署と懸念しているので、朝や夕方の混雑時間帯を避けて運行する予定である。
会長	・委員はどの時間帯に乗車可能か。
事務局	・10月9日の午後に案内する予定。都合がつかない場合は、希望を募り、席を確保する。団体や関係者の皆様にも乗車いただきたいので、個別に連絡いただければ対応する。
会長	・報告事項 P5ロードマップにも示されているとおり、2026年、27年、28年と続くため、乗車した意見を集約し、地域コミッティ会議できちんとフィードバックしていただきたい。
委員	・運行期間を菊人形期間にバッティングをさせることで、実際の状況に合うか検証ができる。県外のドライバーが増えることが考えられ、市内は自動運転の十分な周知ができると思うが、県外ドライバーに対し、道路が混み合う時に、時速20kmの車両が走ることをどう周知を行う予定か。
事務局	・市のホームページなど SNS で発信する。SNS だけで伝わらない部分は菊人形のチラシや会場の案内で実施する。菊人形としっかりタイアップという形で、菊人形の SNS を活用し、自動運転の周知を行いたい。
委員	・だるまちゃん広場の北側は非常に混み合うため、十分な周知をお願いする。

◆報告事項（2）令和6年度利用実績等について

発言者	内容
	資料に基づき、各運行会社より説明
	・質疑なし

◆協議事項（1）市民バスから予約のりあいタクシー（デマンド交通）への移行について

発言者	内容
	資料に基づき、事務局より説明
委員	・予約のりあいタクシーに移行する方向性になっており、冒頭に、「移行後、市民バス利用者の受け皿になっているかどうかを見ていきたい」と話があったが、ぜひともお願いをしたい。

会長	・協議事項 P11によると、予約のりあいタクシーへ移行を行った利用者の「以前の主な移動手段」は市民バスが 8.5%、路線バスも 8.5%で、一番影響を受けているのがタクシー13.4%である。市民バス利用者は、市民バスだからこそ移動できる環境であって、市民バスがなくなれば自家用車に戻ってしまう可能性も無きにしもあらずだと考える。また、家族の送迎が増えてしまう方向に舵がきられる可能性もないわけではない。 ・アンケートの考察を見ると、予約のりあいタクシーの影響が高いのがタクシーであって、実際に市民バス利用者は果たしてどこへ転換するのかということが、非常に大きな要素である。その辺も含めて、あらかじめ仮説を立てたうえでしっかりと状況を把握し、検証してほしい。 ・指摘の通りである。現在の市民バス利用者からどれぐらい転換があるかっていうところが重要で、今回の調査では掘めていない。 ・協議事項 P11の「以前の主な移動手段がどのモードか」ということが重要で、自家用車や送迎から新しい交通モードへ転換があることは望ましいことではあるが、今は「市民バスからの転換がきちんと図られているか」について十分見極める必要がある。今すぐ調査は難しいかもしれないが、少なくとも中間年度ということは、1年前には調査を行い、調査の中身について、協議会で提示をしながら、どういった仮説で検証を行うのかというところは委員に協議をいただく内容かと思うので検討してほしい。
事務局	・承認をいただければ、8月以降に市民バス乗り込み調査を予定している。実際の利用状況が具体的に聞けると思うので、移行の仕方も一緒にサポートしやすくなると思う。 ・地区へお話を伺った時、利用者アンケートについて、今後、登録者も含めたアンケートをやってほしいと声をいただいた。会長からも話が合ったようにアンケートの内容についても、協議会で図りながら、引き続き実施していきたい。
委員	・方向性を否定しないが、果たして予約のりあいタクシーに変えた場合、市の予算がどうなるのか。市民の方も見たいと思う。例えば、すごく便利になっても費用が10倍かかる場合、誰も選択しないのではないかな。金額的なことがあまり明らかにならないのがどうなのか、判断がしづらいなと思う。 ・予約のりあいタクシーに移行すると、サービス供給の制約は本当はないのか。バス運転手は足りないが、タクシーであれば足りるのか。 ・予算とサービス供給の制約について、判断するにあたってデータなどがほしい。
事務局	・経費についてはお示ししていないが、予約のりあいタクシーの車両の数は、A エリアに1台、B エリアに2台、合計3台運行しており、10月からエリア拡充に伴い、A エリアに1台追加し、合計4台で運行を予定している。予約のりあいタクシー4台運行分と現状の市民バスの運行経費はそこまで変わらない経費で運行ができるという予想をしている。ただ、予約のりあいタクシー利用者が増え、台数を5台、6台、7台と増やした場合、経費は当然増えていく。また、運行日や時間の拡充に伴い、経費も上がっていく見込みである。 ・実際の利用状況やタクシー事業者様との連携を行いながら調整する。
会長	・意外とこのような会議の場では収支の議論が行われない。出せる範囲で構わないので、情報の共有をお願いする。 ・公共交通計画の中では、収支率という形で目標の数値を問うところはあるが、実際、かかった経費が都市経営的にどうなのかについては十分踏まえた指標にはなっていないため、そういったデータに関しても、年度ごとに確認をしていきたいと考える。 原案のとおり承認

◆協議事項（２）路線バスの運行見直しについて

発言者	内容
会長	資料に基づき、事務局より説明
委員	・本協議事項は前回の協議会で、委員に一度お諮りした内容にはなっているが、具体的にどういった内容で減便・廃止をするのか、特に白山線に関しては減便という形で進めるということで、委員に意見をいただきたい。 ・いずれも代替が可能だということ、現状を踏まえた上でこれが妥当ではないかということである。 ・福井鉄道の吉川委員から、減便や廃線について地元のお客様の声はいただいているかお伺いしたい。 ・該当路線については、最初から計画していたこともあり、運転手不足ということで地元へ説明に伺っていた。地元からは「私らが乗ってなかったのが悪かったのかな」と言葉をいただいた。「どうしても残してほしい」という声は少なかった路線である。
会長	・白山地区については、違った形の交通モードが動き始めたこともあるが、高校生が利用しているということで、全て廃線ではなく、ピークの時間帯を一部残す形で進めていくという内容になっている。十分地域の方々にご理解いただいた上で、減便・廃線の検討の土台には上がっているという状況である。 ・ただ、全体を通して、ネットワークが貧弱になっていくことは否めないもので、新しい交通モードがきちんと代替できているか、そして市全体のネットワークとして、路線がなくなっても本当に耐えるか、事務局から説明があったとおり、中間評価でしっかり調査を行いながら、フィードバックをし、委員にも議論いただきたい。 原案のとおり承認

◆その他 越前たけふ駅からの二次交通について

発言者	内容
事務局	・シャトルバス運行終了後の現在は、タクシーと予約のりあいタクシー、レンタカーやカーシェア、レンタサイクルが越前たけふ駅からの二次交通としての役割を担っている。本市における公共交通の一番の課題としては、「北陸新幹線「越前たけふ駅」からの二次交通の整備と充実」である、と認識しており、専門的な知見を持った委員の皆さまに、ご意見をいただきたい。
会長	・一度はシャトルバスが運行したが、今はない状況の中、タクシーが唯一二次交通として機能している。現行のままではなく、新たな在り方を模索したいということで、委員から意見をいただきたい。
委員	・デマンドやレンタカーで十分対応できるのではないかな。タクシーは生活タクシー、酔客、観光、サラリーマンがメインであり、二次交通の議論といわれても何を議論するのか。 ・もう１点、鯖江市や越前町など丹南市町では交通手形を出している。タクシー料金は安くはない。利用者から「安くして」と声はあるが、安くできず悩ましい。 ・参考として、鯖江市では鯖江市以外の利用者は500円で利用できる交通手形がある。越前市は過去に交通手形があったが今は考えていないとのこと。 ・市としてはお客様に来ていただくことをどのように考えているか、聞きたい。

会長	・デマンドはあくまでも地域の方々の交通モードということなので、観光の方々の交通モードをどうするのか気がなるところである。
委員	・周遊タクシーはあるが、他に何も無い。何も無いのに、二次交通の議論といわれても話をする事はない。また、市が力を入れているかどうか分からない。コロナ禍が明け、新幹線が開業した今観光客を呼ぶタイミングで交通手形をやめてしまった。
事務局	・二次交通をどうするかについては、観光部局も検討している。地域交通課として、市民の足を重点的に考えてきた。ところが、逆に観光の足がなくなったこともあり、課題だと考える。「まちなか」でありながら、「交通空白」でもあり、交通課だけでなく、市全体でどうしていくか考える中でアイデアをいただきたいところである。
会長	・丹南広域定額タクシーについて、今年度は継続しているが、いつまで続くかは不透明である。次の新たな一手を探すために色々模索をしている状況である。
委員	・交通担当だけでなく、市全体で検討していただく。 ・越前たけふ駅からの二次交通とは、観光二次交通のことか、それともまちづくりにおける公共交通基軸をどう作るかということか。 ・市都市マスには越前たけふ駅と武生駅の2つの拠点を手を使ってまちづくりを行うと記載があったかと思う。つまり、「越前たけふ駅からの地域公共交通ネットワークとしての基軸をどう作るか」が1つの論点としてあるはず。また、観光二次交通について考えると、「越前たけふ駅からの周遊ルートはどう作るか」を考えなければならないのではないかと。地域交通の基軸」と「観光二次交通」を併せて考えないと二次交通の議論は難しいのではないかと。論点を整理する必要があるのではないかと。
会長	・計画策定時、土地利用の方向性と交通を切り分けて考えてはいけないという話をした。市としては武生駅、あいぱーく今立、越前たけふ駅の3つがまちづくりとして拠点になる。しかし、繋ぎ方がどうあるべきかは曖昧なまま、当初はシャトルバスがあったが今はなく、デマンドだけで耐えうるかどうか。そこで新しい交通モードを議論したいということだとは思っている。今日は意見をいただき、議論の土台にしたい。事務局から整理された論点や方向性を示されたとき、委員からは具体的な意見がほしい。
委員	・以前、シャトルバスに関して意見をいただいたが、いかがか。 ・シャトルバスがなくなったことは残念である。新幹線駅で在来線に接続していない単独新幹線駅は14駅ある。北陸新幹線では安中榛名駅、上越新幹線では上毛高原駅、東北新幹線にも多くある。しかし、調べた限りでは在来線駅との接続バスがない駅はおそらく越前たけふ駅だけである。定時運行便があれば、事前に調べて計画が立てられる。何らかの形で復活してほしい。
事務局	・他の地域では、路線バスを新設するのではなく、既存の路線バスが新幹線駅へ乗り入れている例があるが、越前市では南越線や池田線が越前たけふ駅へ乗り入れできないか。 ・以前、路線バスの乗り入れは議論をした記録がある。南越線や池田線は高校への通学に利用されており、路線の変更は速達性がなくなることから実現しなかった。今後検討材料としたい。
会長	・運行事業者と調整が必要であるが、ぜひ議論の土台にあげて、何ができて何ができないのか、議論を深めていけたらよい。
委員	・2駅間を結ぶ交通として定額タクシーやデマンド交通が挙げられるが、二次交通となると新幹線に乗ってきた方、県外や市外の方が利用する。その方々が、デマンドを使っている割合は分かるのか。また、その方々に使いやすくしていくことが、二次交通を強化していくのではないかと。
事務局	・定額タクシーやデマンド交通の利用状況を見てはどうか。 ・協議事項 P11、予約のりあいタクシー利用経験者アンケートでは、252人中160人が市内在住

委員	者、残り92人は市外利用だと推測できる。現在、登録者を含めて市外の人数を持ち合わせていないが、市外の利用者も一定数いるので、予約のりあいタクシーの周知を行うことも課題である。 ・観光二次交通と地域交通のすみ分けも課題であり、観光部局と検討しているところである。 ・バス路線の作り方は駅から放射状に路線が伸びていくのが一般的である。越前たけふ駅から放射状に路線を引くのは現実的に難しい。二次交通を越前たけふ駅で全てまかなうのか、越前たけふ駅から武生駅まで来させて、武生駅から動かすのかによって在り方が異なると思う。二次交通といっても全てをまかなう方法は難しいため、論点を絞り込んだ形で、どのように人を動かしていくかという作戦が必要ではないか。 ・デマンド交通はバスの代替交通にはならないと思うし、越前たけふ駅は、新幹線という大量輸送機関からの二次交通であるので、それなりのものを考えなければならない。
会長 事務局	・越前たけふ駅を中心にと捉えているが、どのような位置づけで二次交通を検討しているか。 ・当初、在来線と新幹線駅はスムーズに乗り継ぎができるべきという考えでシャトルバスを運行していたが、1年間運行した結果、利用者は目的に応じた駅を利用することが見えてきたため、シャトルバスは廃止し、それぞれの駅からの次の移動手段を考えないといけませんが、現状、越前たけふ駅は何もない状況である。 ・駅前開発が進めば、越前たけふ駅を起点とした放射線上に広がる交通ができ、次のところにつないでいくことができるかなと思うが、まだ開発が進みきれてない、今から始まろうとしている中で、放射線状に結んでいくことができない。そこで何かいい案はないか検討しているという状況である。
会長	・越前たけふ駅の周辺は一気に開発をしない状況で、このタイムラグの間、どのように交通ネットワークとして維持をするのかは、重要な論点のため、検討をいただきたい。 ・市公共交通計画の目標3には、来訪者や地域の方に快適で多様な二次交通を作りたいと掲げている。シャトルバスは評価をし、運行をやめた経緯を踏まえて、次どうあるべきかを実践しなければならない。今年度議論していく中で、自分事として捉え、利用者や交通事業者の立場から意見をいただきたい。
委員	・観光の足について、スマホ検索が主流で、主に Google が使われているのではないかな。そこに載せることができればよいのではないかな。また、インターネットについて、バス会社や行政のホームページで時刻表や路線図を見て、日本語が読めたとしても、日本人も外国人もたどり着けないと思う。周知や表記についても一緒に考えてはどうか。 ・運行するバスに運行する意味を持たせてはどうか。越前市では体験型の観光地が多いため、体験時間帯に合わせた、施設の特性を生かした運行を考えてはどうか。
会長	・MaaS のような情報発信は考えていかなければならない。観光部局と積極的に議論をしていくべきであるため、協議会の議題に挙がる場合は同席いただきたい。 ・計画目標3に掲げていることでもあるので、今年度、協議会の中で委員にお戻しができるよう議論の内容を集めていきたいと思うので、引き続き、協力をお願いしたい。 ・この場で意見が言えなかった場合は、事務局へ意見を送ってほしい。
委員	・自動運転実証事業で武生駅から越前たけふ駅のルートを考えているということはビジョンを持っているのではないかなと思う。自動運転は運行システムの完成にものすごく時間かかると感じるため、現実的に武生駅と越前たけふ駅を結ぶものが必要であると考え。企業誘致が進んでいないが、(株)福井村田製作所など工場間の移動があるはず。民間事業者を絡めて、事業費を分担し、効率的にできないか。行政単独で行わないといけないことはなく、事業者の思いを聞き、い

会長 事務局	いシステムを作ってほしい。 ・そのような協議を民間事業者ともすることはあり得る道かと思う。 ・国土交通省主導において、全国各地で介護事業者や工場を巻き込んだリデザインのモデル事業を行っており、参考・模索しているが、越前市にあったものが見つからない。(株)福井村田製作所の移動も含めて、共同で進めていくのは、いいアイデアだと思うので、研究する。
会長	・共創プロジェクトという形で、国庫補助で実証実験等もできるようになっているため、ビジョンを明快にして進めていけたらよい。 ・自動運転は、目標としては2029年にレベル4で武生駅と越前たけふ駅を繋ぐ目標がある。しかし、今の状態がこのままということは当然ないと思うので、いろいろなアイデアをうまく組み合わせながら、暫定的なところを検討していきたい。
委員 事務局	・前回の協議事項の中で、吉野、大虫、国高地区の予約のりあいタクシーが10月2日から実施予定であったが、どのように進んでいるのか。 ・10月2日の運行開始に向け、準備を行っている。具体的には、各地区の区長と停留所の協議を行い、おおむね決まった。また、公安協議も行っている。地区説明会を行い、役員に説明を行った。パンフレットができ次第、各町内への説明会を予定している。

◆その他、意見・質問

発言者	内容
事務局	・次回の協議会は11月を予定している。